

Para World Sailing Championships 2017 参加報告書

派遣期間 (6/17~6/27) 開催地 (ドイツ・キール)

初めに

この度は多くの方のご支援で、念願かなってパラワールドに出場することができました。心から感謝申し上げますとともに、大会参加のご報告を申し上げます。

私は 2011 年から 3 年間、千葉の県立磯辺高校ヨット部で過ごし、3 年の時には主将として関東インターハイではソロで優勝、全国インターハイでは 4 位でした。卒業後もヨットを続けたいと思っていた矢先、19 歳の時に事故で右足下腿切断という障がいを負ってしまいました。障がい者セーリングの道に進むこととなりました。

高校からヨット競技を続けていたこともあり、義足ができ上がる前からヨットに乗っていました。その時の喜びは忘れられなく、今自分が前を向いているのは、周りのサポートはもちろんヨットの存在は大きかったと感じています。

2015 年にオーストラリアでリオパラリンピックの予選があったので、すぐに練習を始めました。しかし、2.4 クラスで半年も練習していない私にとっては厳しい世界でした。どんなスポーツでも上には上がいて、予選敗退という結果でした。障がい者セーリング競技は日本に選手がほとんどいないこともあり、私がレベルアップするためには、世界で戦いトップセイラーの技術を盗むことが必須です。そこで今回、大会に参加することを決意しました。

*2017 Para World Sailing Championships はドイツ、キールにおいてキールウィークの一環として 6 月 20 日から 25 日まで 39 カ国、80 人以上のアスリート参加で以下の 3 種目で行われました。

- Norlin 2.4 OD 1 人乗りキールボート (Open) 2.4 クラス (45 艇エントリー)
- Hansa 303 1 人乗りキールボート (女性) (11 艇エントリー)
- Hansa 303 1 人乗りキールボート (男性) (31 艇エントリー)

2.4 クラス

障がい者セーリングは、障がいの程度でクラス分けがあります。それは車いすバスケットのように個人にポイントが付き、セーリングでは 1pt~7pt の範囲です。今年から競技から外れましたが、3 人乗りの Sonar クラスでは、3 人の合計が 14pt の範囲でチームを組むというものです。

私が乗っている 2.4 クラスは、一人乗りでポイントに関係なく、どの障がいの人も一緒に戦います。私のポイントは 7pt ですが、ポイントの高い方がスキッパーをするには 1 人乗りのクラス (2.4mR、Hansa303) しかありません。故に、選手の障がいの程度が低く、艇数が一番多くなる種目です。

今大会の目標

参加艇数の半分より上位

パラリンピック国枠以内（リオデジャネイロ上位 16 カ国）

成績

21/43 位（国別 15 位/25 カ国）

R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	Total Pts
22	19	22	22	23	20	25	【30】	24	21	228 【198】

順位	国	選手名
1	ドイツ	Heiko KROGER
2	オーストラリア	Matthew BUGG
3	フランス	Damien SEGUIN
21	日本	Takumi NIWA

感想・反省

今回、参加艇数の半分より上位かつリオデジャネイロの国枠 16 カ国以内に入る目標を達成したというのが何より大きな収穫です。

10 レースすべて 20kt 前後の強風でした。苦手な強風下で安定した順位でまとめられたのですが、動作やハンドリングは 2.4 クラス艇での練習環境不足から課題が多くあります。また、私の持っているセールは 0～16kt 対応のもの 1 セットだけですので、強風用のセールも必要であることを痛感しました。2.4 クラスはジブ 3 枚、メイン 2 枚まで登録ができ、風によって変えることが許されています。今後さらに上位を目指すには、練習の他にそのような面も大切になってきます。

3 日目はガストで 30kt 近く吹き、壊れてリタイアする艇が多く出ました。私も 6 レース目はフォアステイのピンが飛んでしまったり、9 レース目の 2 レグでウィスカーポールのショックコードが切れ、走れなくなるほどではないですがトラブルがありました。そこはチャーター艇の不利な点ではあると思います。

現地では、JSAF 参与の大谷さんのお知り合いでコーチを引き受けてくれたドイツ人夫妻にとってもお世話になりました。レース前の登録や計測、出艇前の準備など今までで一番スムーズにいきました。

足りない語学力ですが他の国の選手とも、交流でき楽しめました。次回までに英語はもっと話せるようになり、一人でもレースに参加できるぐらいになれないといけないと思いました。

今後の活動

パラワールドにチャレンジするには、やはり毎週 2.4 クラスに乗れる環境をつくる必要があります。今は身近で乗れる 2.4 クラスがないですが、ほかの艇種で練習やレースをすることは重要だと思うので可能な限り練習を積んでいきたいです。また 2.4 クラスでは、

体幹が重要ですので積極的にフィジカル面も鍛えていきたいと思っています。

今年の広島で行われる「第10回ひろしまピースカップ・国際ハンザヨット大会」2018年ハンザワールド大会のリハーサルイベント、来年の「2018 ハンザクラスワールド&インターナショナルチャンピオンシップ広島大会」も視野に入れてチャレンジして行きたいと思っています。

最後に

今回の遠征は是非とも叶えたいと思っていましたが、私の至らなさもあって関係の皆様方との調整が進まず、出場をあきらめかけていました。しかし JSAF をはじめ多くの方達の強力で暖かいサポートのおかげで遠征にこぎつけることができました。時間のない中で資金的カンパを含めて迅速な対応をしてくださった皆様、本当にありがとうございました。

これを機に、パラリンピックから外れたセーリングの正式競技への復活に少しでも協力できるように、良い成績を残し、多くの人がパラセーリングに挑戦してもらえる環境を作り出せるように活動していきたいと思っています。(2017年6月29日 丹羽 巧)



スタート風景



現地サポートメンバー



1人乗りキールボート(Norlin 2.4 OD)